

# 近代英語協会ニュースレター

2020年(令和2年)10月12日

近代英語協会事務局分室

〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池 12

愛知学院大学文学部前田研究室内

協会ホームページ <http://www.modernenglish.jp/index.html>

電話: 0561-73-1111(内線 3264)

年会費振替口座 00810-9-5821

## 1 第37回大会(ウェブカンファレンス)の報告

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、理事会での決定を受け、例年のような対面式の大会の開催を見送らせていただきました。対面式大会の中止は協会史上では前代未聞のことであり、また近年の大会のにぎわいを考えますと、苦渋の選択ではありました。しかし昨今の社会状況を考慮いたしますと中止もやむなしとの判断となり、今年度の大会はウェブカンファレンスという形での開催とさせていただきます。さて、ウェブカンファレンスは去る8月24日から9月2日まで、協会ホームページ上にて開催されましたが、会員の皆様からは多数のご質問・コメントをいただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。来年度こそは無事に対面式大会を開催できますよう事務局一同切に願っております。

## 2 第38回大会について

次回大会は、2021年6月26日(土)、愛知県名古屋市の南山大学において開催を予定しております。シンポジウムについては、“How the peripheral survived the age of standardization: Three diachronic cases in the history of English”(「周辺表現はどのように英語標準化時代を生き抜いたのか—3つの事例から考える—)という共通テーマのもと、司会・講師として柴崎礼士郎先生(明治大学教授)、講師として、堀田隆一先生(慶應義塾大学教授)、渡辺拓人先生(関西学院大学助教)にご発表いただきます。

また、特別講演は、近・現代英語のコーパス言語学とクレオール研究で名高い、ドイツ連邦共和国フライブルク大学のChristian Mair教授をお招きします。氏は、講演・口頭発表を除き、120点を越える業績を有する方で、2010年以降だけでも、単著5、共著4、著書分担執筆27、論文19を公刊し、精力的に活動しています。E. C. Traugott, D. Denison両氏の後を受け、The International Society for the Linguistics of Englishの第3代会長を務めました。当日は、“Ongoing change in Modern English: new language, new corpora, new concepts”と題する講演をお願いしてあります。また、氏には朝一番から大会に参加いただき、午前の部のシンポジウムを盛り上げていただくために、質問およびコメントをお願いしてあります(そのため、シンポジウムの司会・講師の3人には、英語による発表と、日本語によるまとめをお願いしてあります)。また、空き時間には、氏の著書を持参された会員の皆様の本に、直筆でサインしていただけるようお願いしてあります。氏に関する情報は、URL ([https://www.researchgate.net/profile/Christian\\_Mair](https://www.researchgate.net/profile/Christian_Mair)) をご参照ください。

個人研究発表の締め切りは2021年1月31日(日)です。発表をご希望の方は、(a) 発表題目と400字程度の要旨、(b) 氏名・所属・職位・略歴・連絡先(住所、電話番号、Eメールアドレス)・大会発表助成金希望の有無(※参照)を別文書として作成し、下記の(ア)、(イ)いずれかの方法でご応募ください。様式は、協会ホームページにあります。なお、本協会の趣旨により、発表内容は近代英語の研究、あるいは近代英語を含む英語の歴史的研究に資するものとしてください。

(ア) Eメール添付による応募

- ・ (a) 特殊文字を使用される場合はMSWord文書、及びそのPDFファイルを添付
- ・ (b) 特殊文字を使用されない場合はMSWord文書のみを添付

宛先 [m-maeda@dpc.agu.ac.jp](mailto:m-maeda@dpc.agu.ac.jp)

(イ) 郵送による応募

- ・ (ア) の (a) または (b) のいずれかを記憶したCD-R
- ・ 打ち出し原稿

※ 大会発表助成金制度について

本協会では、大会参加への費用を軽減し、若手研究者を中心に大会発表を奨励するため、大会発表助成金制度を設けております。助成対象者は、発表を行う大学院生・常勤職のない会員（発表を行う年の4月1日時点で37歳以下または修士号取得後10年以内で、所属機関等より大会会場への交通費の補助を受けていない者）といたします。また、助成金額は、自宅から大会会場までの国内交通費（往復）とし、交通費の計算は協会事務局が行います。なお、申請方法は、大会発表の受理後に、申込用紙（発表応募時に希望を明記）に詳細を記入し、事務局に提出頂きます。多くの発表の応募をお待ちしております。

### 3 理事の交替について

2021年3月31日をもって石崎保明先生（南山大学）、川端朋広先生（愛知大学）、地村彰之先生（広島大学名誉教授/現岡山理科大学）（五十音順）の3名の理事が任期を満了して退任されます。長きにわたり協会の発展にご尽力頂き、誠に有り難うございました。なお、新理事として、塚本 聡先生（日本大学）、堀 正広先生（熊本学園大学）、松原史典先生（京都女子大学）（五十音順）が就任されます。任期は、2021年4月1日～2025年3月31日の2期4年です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 4 『近代英語研究』 第36号の発行について

第36号は予定どおり刊行され、先日ウェブカンファレンスの資料とともに会員全員に郵送させていただきました。会員の皆様の中で、もしお受取になってない方がいらっしゃいましたら、お手数ではございますが、事務局長（前田）までメール（m-maeda@dpc.agu.ac.jp）にてお知らせください。改めて送付させていただきます。

### 5 近代英語協会最優秀新人賞ならびに優秀学術奨励賞の選考結果について

本年度は、編集委員会による厳正なる審議の結果、下記のとおり1名の優秀学術奨励賞受賞者が決定いたしました。次年度も応募をお待ちいたしております。

賞の名称：優秀学術奨励賞

受賞者氏名：福永真理子

受賞対象論文名：Usages of the Auxiliary DO as Revealed in the Letters of John Winthrop (1588-1649) and His Male Descendants in the 17th and 18th Centuries

受賞理由

本論文は、John Winthropを初代とするWinthrop一族男系5世代の書簡コーパスを他の史的コーパス等と比較し、後期近代英語期における助動詞doの歴史的変遷を用法・文体・世代差の観点より共時的に検証している。研究手法として特筆すべきは、筆者編纂の言語コーパスを用いた精緻なコーパス調査である。Winthrop家5世代12名による1620年から1776年までの書簡788通を収集し、収録語数324,310語のCorpus of the Winthrop Family Correspondence (CWC)を構築した。このCWCは書簡の書き手と読み手の関係に基づく分類が可能であり、用法・世代差に加えて文体に関する計量的分析が行える点でも評価できる。迂言的do肯定文・迂言的do否定文・迂言的doを伴わない単純否定文という3種類の構文に関して分析が行われた。Winthrop一族は、迂言的do否定文の受け入れに保守的でありながらも世代を追うごとにこの迂言的否定文の浸透が見られた一方、迂言的doを伴わない単純肯定文の受け入れには積極的であった、という主張は説得力があると思われる。さらに、世代間で異なった文脈で用いられてきた迂言的do肯定文が次第にフォーマル度の高い書簡文体に限定されていったなど、興味深い議論も見られる。今後、このCWCを用いたコーパス調査でより一層の飛躍を期待したい論考である。以上の理由により、本論文は「優秀学術奨励賞」にふさわしいと判断する。

— 『近代英語研究』編集委員会

なお、賞には、最優秀新人賞と優秀学術奨励賞の2種類があります。若手による当該年度の掲載論文の中から、前者は特に秀でている論文に、後者は、最優秀新人賞にはいたらないが将来性を感じさせ優れていると評価された論文に与えられます。最優秀新人賞には表彰状と記念品が、優秀学術奨励賞には表彰状が授与され、その荣誉が讃えられます。

選考対象は、「協会誌への掲載が可となった、投稿締切日時点で37歳以下の、または修士号取得後10年以内の執筆者による論文のうち、「原稿応募時に「執筆者情報ファイル」において賞の選考を希望する意思が表明されていた論文」(選考規程第2条より)です。選考希望の意思表示のため、論文投稿の際、「執筆者情報ファイル」内の項目3の該当欄に「○」をご記入ください。

## 6 『近代英語研究』掲載論考の転載(および刊行)許可申請手順について

『近代英語研究』に掲載済みの全ての論考の著作権につきましては本協会に属することをご理解いただきたいと思います。掲載済み論考を著者の方がご自身の学位論文へ転載を希望される場合、および、その論考が転載された学位論文の刊行を希望される場合もあるかと存じます。そのような場合につきましては、編集幹事宛に所定の許可願をご提出いただくことで、協会から許可書を発行させていただくことになりました。ご希望の方には申請書をお送りいたしますので、編集幹事(鈴木・船田)までEメール(mode.assoc@gmail.com)にてご連絡をお願いいたします。

## 7 『近代英語研究』掲載論考の、研究機関(大学等)リポジトリへの登録について

上記の通り、『近代英語研究』に掲載済みの全ての論考の著作権につきましては本協会に属することをご理解いただきたいと思います。掲載済み論考を著者の方が研究機関(大学等)リポジトリへの登録を希望される場合もあるかと存じます。その場合につきましては、協会誌の発行の1年後から登録を可能とすることになりましたので、登録する前に編集幹事(鈴木・船田)まで、ご相談のご連絡をお願いいたします。

## 8 『近代英語研究』電子アーカイブ化

J-STAGE(独立行政法人科学技術振興機構)に、『近代英語研究』が電子アーカイブ化されております。パソコン等でサイトにアクセスすると、創刊号から第25号(2009年)までの論考を、現在ご参照いただけます。近代英語協会ホームページ<<http://www.modernenglish.jp/index.html>>左下の「協会出版物」からのリンクが便利です。

なお、第26号(2010年)以降の論考については、現在掲載の準備を行っております。いましばらくお待ちください。また、『近代英語研究』の冊子と同様に、すべての著作権は本協会に帰属することをご了解いただきたく存じます。

## 9 ホームページの図書紹介欄について

会員の皆様が出版された文献を本協会のホームページでご紹介いたします。自薦、他薦は問いません(他薦の場合は著者の了承を得てください)。紹介されたい著書(翻訳本も可)のタイトル、表紙の写真、および紹介文(800字程度まで)を添付し、IT管理者の柳朋宏先生まで電子メール(administrator@modernenglish.jp)でお送りください。なお、書籍の実物の事務局への送付はお控えください。

## 10 会費納入のお願い

本年度ウェブカンファレンスの資料をお届けした8月上旬、資料とともに会員お一人お一人に振込用紙を同封いたしました。どうか、納入漏れのないよう今年度中に請求額全額をお振り込みいただきますようお願い申し上げます。協会の円滑な運営のため、ご協力ください。なお、3年間未納の場合は、規定により退会となりますのでご注意ください。

## 11 終身会員制度の導入について

終身会員の申込資格は次の(1)、(2)のいずれかとなります。

- (1) 66歳以上、または当該年度中に66歳になる会員で、過去10年間会費を全納した会員
- (2) 顧問として承認された会員

申請の際には、所定の申請書を提出し、終身会費3万円を払ってください。申請用紙、ならびに払込用紙は事務局長(前田)までメール(m-maeda@dpc.agu.ac.jp)にてご請求ください。申請された年度より年会費は不要となります。終身会員には大会の懇親会に無料で参加できる特典があります。

## 12 所属、および連絡先通知のお願い

所属、および連絡先（住所、E メールアドレス等）に変更があった場合は、速やかに事務局長（前田）までメール（m-maeda@dpc.agu.ac.jp）にてお知らせください。学生会員の方が学生の身分を終えられた場合も、会員種別が「学生会員」から「一般会員」へ変更となりますので、ぜひメールにてお知らせください。 よろしく願いいたします。

## 13 事務局より

今年度は新型コロナに始まり、新型コロナに終わる 1 年になりそうな雰囲気ですが、会員の皆さまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスの感染拡大は想像を超えた想定外の事態であり、おかげで今年度は大学においても学会においてもまさに異例の事態の連続となっています。大学教員になって 30 年近くになりますが、生まれて初めてオンライン授業などというものを経験し、また、先日こちらでもはじめてオンラインでの研究発表というものも体験しました。新型コロナウイルスの感染拡大がまだまだ収まらない状況では、これもいたしかたないことですが、協会史上はじめて大会が web 上での開催となりました。2 年間学部の教務主任を務め終え、はれて今年はいちこの学会の大会に姿を見せようと思っていた矢先、他の学会でも続々と対面式の大会の中止がホームページ上で発表され、私としては誠に残念な限りです。現在のところ来年度もなお新型コロナウイルスの感染拡大が終息しないという危惧もあり、事務局一同戦々恐々と事態の推移を見守っているところですが、次こそは大会の場で皆様にお会いできることを切に願っております。今後とも事務局へのご協力のほどよろしくお願い致します。

事務局長 前田 満

- 協会誌について  
鈴木大介・船田佐央子（五十音順）（編集幹事共通：mode.assoc@gmail.com）
- ホームページについて（会員の出版された図書紹介もお寄せください）  
柳明宏（administrator@modernenglish.jp）
- その他全般について  
前田満（m-maeda@dpc.agu.ac.jp）